

米国 1年ぶりの残高増加（10年1月消費者信用残高）

発表日：2010年3月9日（火）

～減少基調は変わらず～

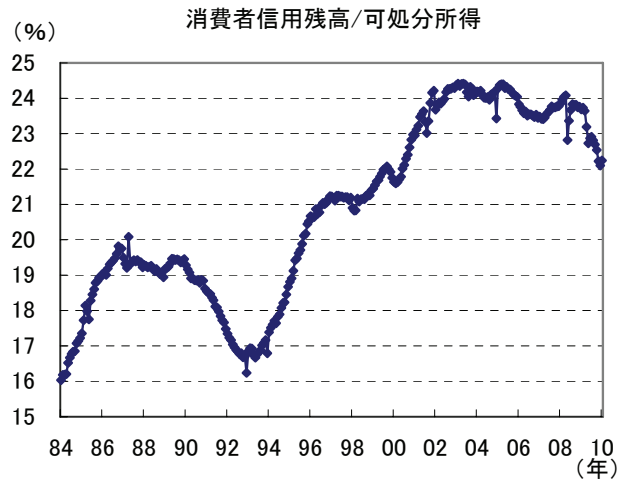
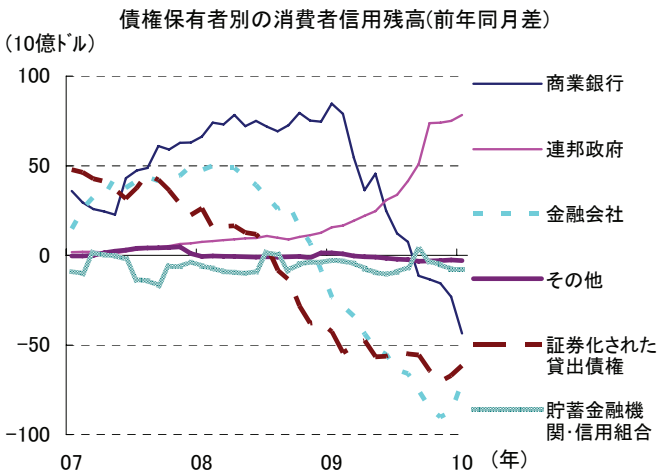
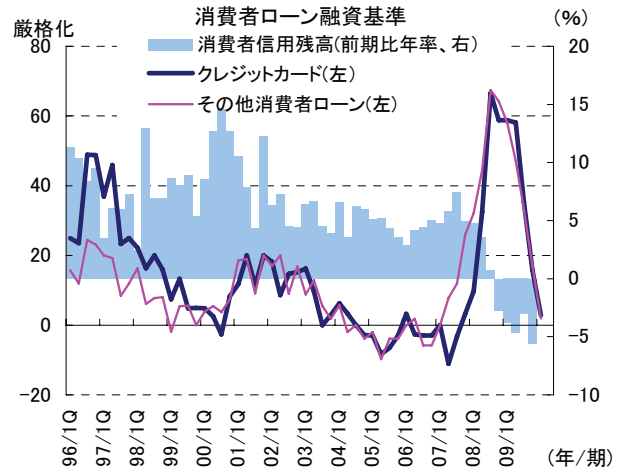
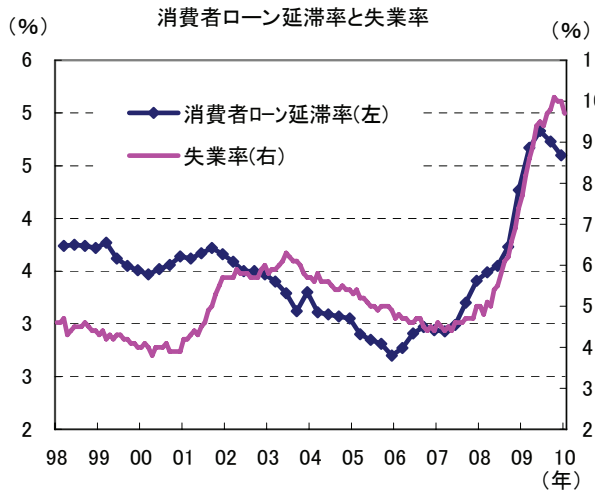
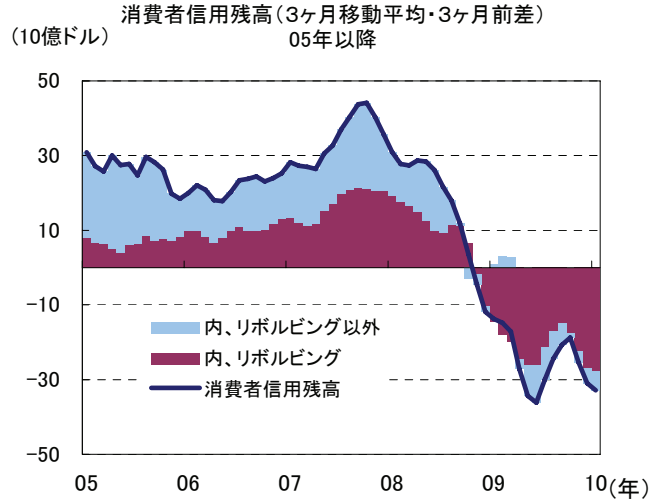
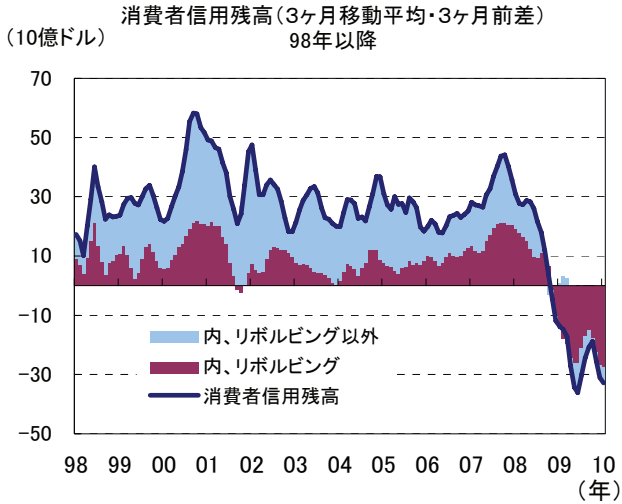
第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 近江澤 猛
03-5221-4526

- 10年1月の消費者信用残高（季節調整済）は2兆4563億ドル、前月差+50億ドル（前月比年率+2.4%）と、市場予想の同▲45億ドルに反して増加した。前月比での増加は09年1月以来、一年ぶりとなる。もっとも、3ヵ月移動平均・3ヵ月前差では▲32.8億ドル（前月同▲31.0億ドル）と大幅な減少が続いており、依然として民間金融機関の融資姿勢は厳格化された状態が続いることも考慮すると、残高の減少基調に変わりはないと判断できる。
- 内訳はリボルビング（クレジットカード等）が前月差▲17億ドル（前月比年率▲2.3%）と前月同▲94億ドル（同▲12.9%）から減少幅は縮小。前月比での減少は16ヵ月連続で、統計を開始した1968年以降で最長を更新している。リボルビング以外（自動車ローン、モービルホームローン、教育ローン等）は自動車販売が底堅く推移していることや、厳しい所得環境を反映して教育ローンの需要増が寄与したとみられ、同+66億ドル（同+5.0%）と前月同+49億ドル（同+3.7%）に続き増加した。
- 先行きの消費者信用残高だが、貸出側からみた消費者向け融資姿勢は最悪期は脱したもの依然として厳しく、高水準の失業率を背景に消費者ローンの延滞率も高水準で推移することが予想され、金融機関の貸出態度が大幅に緩和されるには時間がかかるとみれる。また、可処分所得に対する信用残高が依然として高水準にあることから、今後も家計のバランスシート調整が続き、借入需要も弱い状況が続くと考えられる。したがって、当面は雇用・所得環境が緩やかに持ち直す中で、消費者信用残高は減少幅を緩やかに縮小する程度の改善に留まろう。

	消費者信用残高(10億ドル)			リボルビング(10億ドル)		リボルビング以外(10億ドル)	
		前月差	前月比年率(%)		前月差		前月差
09/01	2563.7	2.6	1.2	956.3	▲ 1.9	1607.4	4.5
09/02	2550.7	▲ 13.0	▲ 6.1	943.6	▲ 12.7	1607.1	▲ 0.3
09/03	2536.3	▲ 14.4	▲ 6.8	935.1	▲ 8.4	1601.1	▲ 6.0
09/04	2521.6	▲ 14.6	▲ 6.9	926.8	▲ 8.3	1594.8	▲ 6.3
09/05	2514.6	▲ 7.1	▲ 3.4	917.4	▲ 9.3	1597.1	2.3
09/06	2506.1	▲ 8.5	▲ 4.1	912.6	▲ 4.9	1593.5	▲ 3.6
09/07	2497.8	▲ 8.2	▲ 3.9	911.9	▲ 0.7	1585.9	▲ 7.6
09/08	2495.3	▲ 2.5	▲ 1.2	903.8	▲ 8.0	1591.5	5.6
09/09	2486.9	▲ 8.4	▲ 4.0	895.9	▲ 7.9	1591.0	▲ 0.5
09/10	2479.8	▲ 7.1	▲ 3.4	889.2	▲ 6.7	1590.6	▲ 0.4
09/11	2455.9	▲ 23.9	▲ 11.6	875.5	▲ 13.7	1580.4	▲ 10.2
09/12	2451.3	▲ 4.6	▲ 2.2	866.1	▲ 9.4	1585.3	4.9
10/01	2456.3	5.0	2.4	864.4	▲ 1.7	1591.9	6.6

（出所）FRB

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所)FRB、米労働省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。